

令和3年度第2回小牧市立図書館協議会会議録

日 時 令和4年2月15日（火）
午前10時00分～午前11時15分

場 所 小牧市中央図書館 イベントスペース

出席委員 9名

唐松 健夫 伊藤 純子
坂廻辺 範子 林 義人
麻生 文子 酒向 道夫
坂東 益子 舟橋 精一
中島 美幸（リモート出席）

欠席委員 舟橋 尚女 近藤 江里子
富川 茂男 中村 豊子（逝去）

事務局 中川 宣芳 教育長
伊藤 武志 教育部長
石川 徹 教育部次長
矢本 博士 図書館長
山田 久 図書館主幹
花里 千賀子 図書館図書係長
波多野 純子 図書館主査

傍聴者 なし

1 開会

【中川教育長】

本日は、お忙しい中、令和3年度第2回小牧市立図書館協議会にご出席いただきまして、誠にありがとうございます。皆様には、日頃より本市の図書館運営に対し、格別のご協力をいただき心より感謝申し上げます。

昨年の3月27日に小牧市中央図書館が開館し10カ月が経過したところであります。コロナ禍の状況が刻々と変わる中で、臨機応変に感染対策を行わなければならないため、職員も気の抜けない状態が続いておりますが、そうした中でも、大変多くの皆様にご利用をいただいております。

イベントなども中止するものも多くありますが、実施が可能なものは感染対策を徹底したうえで、開催をしています。つい先日は、愛知文教大学との連携事業で「小牧の古文書展」を開催しましたが、私のところにも好評の声が届いており、大変うれしく思っています。今日ここにお越しの唐松会長や酒向委員にもご協力いただいたとのことであり、お礼申し上げます。

コロナ禍は、この先まだまだ見通しが立たない状況ではありますが、図書館としましては、引き続き、市民の課題解決や読書活動推進など図書館の役割を可能な限り果たしていきたいと考えております。

さて、本日の議事は、「小牧市教育振興基本計画」における重点事業であります「小中学生にすすめるブックリストの活用」と「レファレンスサービスの充実」について、令和3年度の達成状況と今後の取り組みの方向性について報告させていただき、委員の皆様のご意見をいただくものであり、委員の皆様には忌憚のないご意見を頂戴したいと考えております。簡単ですが開会にあたりまして、ご挨拶とさせていただきます。

2 議事

【唐松会長】

それでは、議事2について、事務局より説明をいただきます。

【花里係長】

それでは議事2の(1)小牧市教育振興基本計画に係る令和4年度(令和3年度実績)版点検評価についてご説明させていただきます。

資料1-1をご覧ください。

「小中学生にすすめるブックリストの活用(施策8)」について、まず、ブックリスト及び読書ノートについて説明をさせていただきます。

ブックリストとは、従来より、教育の観点から学校教諭が学年に応じて選定した良書をリスト化したもので、お手元の図書一覧が、ブックリストです。

このブックリストを活用する手段の一つとして、リストアップされている本の表紙を掲載し、読んだ本の感想が書き込めるノート冊子に整えたものが、読書ノートです。

小学生において、低学年の児童が高学年と同じように本の感想を書くことは難しいとの教員の皆様のご意見を受け、星印に色を塗ることで読んだ記録とするなど、学年に対応したノートとなっています。

この読書ノートの導入初年度は、学校教諭が選定した良書に触れる機会を増やし、本を読む楽しさを感じながら子ども達の読書習慣が形成されるよう、全児童へ配布しました。

また、ブックリストの本を市立図書館でも借りられるよう購入し、常設コーナーとして設置するとともに、学校内でも借りられるよう図書館で購入したブックリスト掲載図書を学校へセット貸出する配本サービスを実施しました。

今年度は、小学1年生・中学1年生全員へ読書ノートを配布しました。資料の達成状況にある①から③のとおり、新しい手段を取り入れて、ブックリストのさらなる活用に取り組んでまいりました。

① 自宅のパソコン等で読書ノートが利用できるように図書館ホームページに掲載し、利用者が自由にダウンロードや印刷ができるようにしました。

② 読書ノートに掲載しているブックリストを、図書館ホームページの「おすすめブックリスト」に追加し、利用者がパソコンやスマートフォンで書誌情報の閲覧や資料予約をやすくしました。

③ 読書記録については、中央図書館の開館に合わせて導入した図書館システムにおいて、図書館で借りた図書の貸出履歴や読書記録をホームページ内のマイページに残すことができるようになりました。

課題と今後の取り組みの方向性について、現在のブックリストは、制作年が古く、掲載図書の更新がされていないため、学校と連携しながら、ブックリスト掲載図書を見直していくことを考えております。また、ブックリストをさらに活用する手段として、現在の読書ノートの機能を改善したリーフレットを検討作成し、ホームページへ掲載するなど読書の習慣化を図ってまいりたいと考えております。

続きまして、資料1-2をご覧ください。

「レファレンスサービスの充実（施策23）」について説明をさせていただきます。

中央図書館の開館に伴い、レファレンス件数が大幅に増加しました。令和4年1月末現在 11,583 件、このうち、メールによるレファレンスは 32 件となっております。また、開館に合わせて、中日新聞や法律の情報など、データベース8種類を導入し、さまざまなジャンルの情報が閲覧できるようになりました。さらに、中央図書館が国立国会図書館のデジタル化送信サービスを受ける承認館となったことにより、国立国会図書館がデジタル化した資料のうち、インターネットで公開されている資料のほかに、絶版等の理由により入手できない貴重な資料のデータの閲覧及び印刷が可能となりました。令和4年1月末現在、印刷件数：108件です。

中央図書館の開館以降、レファレンス件数が増加しているため、職員のレファレンススキルを向上させるとともに、利用者自身でも図書館資料を活用して調べものができるよう調べ方ガイドを整備する必要があります。

今後の取り組みとしては、利用者が自分の調べたいテーマに関する図書にたどり着くための調べ方を案内するリーフレット、パスファインダーの作成に取り組んでいきたいと考えております。また、データベースについては、導入から日が浅く、引き続き PR を行うとともに、利用件数や利用者からの要望を参考とし、導入するデータベースを適宜見直していきたいと考えております。以上が、資料の説明となります。

【唐松会長】

ただいまの事務局からの説明に対して、2つありましたので、まずブックリストについてご質問、変更等のご意見等ありましたらご発言をお願いします。

【舟橋（精）委員】

達成状況について数値的なもので示してもらえれば教えてください。1年生以外の学年へのブックリスト希望者の配布数、ダウンロードした数、読書マスター認定証の発行部数、ブックリストに掲載図書の貸出状況などがわかりましたらお願いします。

【花里係長】

他の学年へのブックリストの配布数はただいま集計中です。ダウンロードした件数についてはシステム的に集計機能がないため把握できない状態です。読書マスター認定証発行枚数・貸出点数も年度末に集計予定です。ただ、読書マスター認定証の発行部数は去年度より減少傾向と聞いております。

【舟橋（精）委員】

課題に「手段を見直す必要があります」とありますが、読書ノートを見直すのか、ブックリストの活用を見直すのか気になります。例えば読書マスター認定証を交付するときの演出として教室でみんなの前で表彰するとか工夫を取り入れたらどうかと思いました。

【矢本館長】

学校の先生と連携してまずはブックリストを新しくしていきます。ブックリストを作った後、図書館でリーフレットを作成していきたいと思いますが、図書館でできることは限られており、学校でどのように使ってもらえるかが重要であると考えています。そのため学校とよく相談して、うまく運用してもらえよう手段を考えていきます。

【坂廻辺委員】

ブックリストの更新について希望を述べさせていただきます。現在は学校の先生方が中心に作成されているということで、なつかしい本などがありますが、更新す

るにあたって中学校の図書委員などの生徒のおすすめを取り入れてほしいです。週1回勤務している司書と協力して作成するなど、先生と同世代の生徒のおすすめ本は若干違っているので、子ども達には受けるのではないのでしょうか。

【伊藤委員】

すごくいいアイデアをいただきました。ブックリストに小牧市学校図書館教育研究会と記載がありますが、多くは図書主任の先生が集まる会です。ブックリストの更新について今月の会で図書館の担当の方から話してもらおう予定でしたが、コロナで流れてしまい、来年度に持ち越すことになりました。子どもの生の声を拾えるのは学校であり、うまく取り入れられるように進めて行きたいです。今年度の読書感想文コンクールの課題図書でも、例えば中学校ではヤングケアラーのものがとりあげられるなど、時代の流れがとりいれられていると感じています。

【中島委員】

図書館ホームページにブックリストが見えるが、文字ばかりだと子ども達には難しいと思います。今後の取り組みにあるように「読書ノートの機能を改善したリーフレットを検討作成し、ホームページに掲載する」とあるのでビジュアルを取り入れたらいいと思います。例えば中学生にすすめるブックリストのマララさんについての本がありますが、有名な国連のスピーチが YouTube に動画がアップされています。ホームページに公的な機関など信頼できるところが配信している動画をアップすれば子どもが本を読むきっかけになるとと思います。大学の授業をリモートで行ってききましたが動画を活用していました。いいものがいっぱいあるので、本を読む動機付けに役立つのではないのでしょうか。ほかにも小学校中学年向けの『長くつしたのピッピ』ではピッピのキャラクターを紹介した1分30秒の動画があるので、このようなビジュアルを可能であれば活用していくことを提案いたします。

【矢本館長】

ご提案は時代に合った活用方法と思われるので、そういった点を含めて検討していきます。

【林委員】

何事でもそうですが最初の一步を踏み出すのは大変です。読む人は読むし、読まない人はなかなか読まない。最初の一步としてブックリストはハードルが高いような気がします。手段を見直す例として、学校などの読み聞かせで最初を読んで、続きは自分で読んでね。など、工夫をしてみるのはどうでしょうか。DVDの映画の予告などは面白くて見てしまうことがあります。読んでみようかなと思わせるきっかけづくりをしてみたら最初の一步を踏み出せるのではないのでしょうか。

【麻生委員】

小学校で読み聞かせをするグループがあるのでその方たちに話しをしてみます。私も読み聞かせをしているのでグループでも工夫してみます。本に触れると興味がわくのではないのでしょうか。

【中島委員】

タブレットの活用方法の一つとして、民間企業により学校向けの電子書籍が1,000タイトル読み放題となるサービス（有料）が展開されており注目されています。今すぐではなくともタブレットを使いながら、紙の書籍も大事ですが、手軽に本につながるという体験が広がると、実際に図書館や学校の図書室に足を運んでみようかなという気になる子ども達が増えるかもしれませんので、本を読むきっかけづくりとなる取り組みを検討してはいかがでしょうか。もう一つ、新しい動きとして学校図書館に小学校は2紙、中学校で3紙、高校で5紙の複数の新聞を配備するように（第6次「学校図書館図書整備5か年計画」）ということが文部科学省から通知が出ていることについても対応を考えてほしいです。

【伊藤教育部長】

タブレットの一人一台配布は令和2年度に完了しており、活用を進めているところでもあります。さまざまな活用方法がある中で実は電子書籍の導入については既に検討しているところです。まだまだこれからではありますが、他市の状況を見ながら検討をしていきたいと思えます。

【唐松会長】

さまざまなご意見が出てきました。この意見を参考にブックリストの活用について充実を図って行ってください。

【唐松会長】

続いて、レファレンスサービスの充実についてご意見をお伺いします。

【舟橋（精）委員】

達成状況にある国立国会図書館のデジタル化送信サービスの利用者数はいくつでしょうか。

【山田主幹】

108件とありますがこれは印刷数のみです。閲覧だけ利用する方もみえますがこれの数倍はあると考えられます。

【舟橋（精）委員】

印刷件数といのはデータベース8種類のことではなく、国立国会図書館の数とい

うことですね。理解いたしました。

【唐松会長】

レファレンスサービスは幅広い意味がありますが、カウンターでの簡単な問い合わせもの含むこともあります。点検評価シートに 11,583 件とありますが、現状はカウンター職員がてんでこ舞いしている状況とは思えません。

【山田主幹】

ご指摘のとおり、この件数は簡単な問い合わせも含めています。ごく一部、込み入ったものが記録されております。

【唐松会長】

達成状況で国立国会図書館の「貴重な資料のデータの閲覧及び印刷が可能となりました」とあるが中央館のみですか。

【山田主幹】

はい。今のところ中央館のみ国立国会図書館の承認館となっております。

【唐松会長】

全部とは言わないが郷土資料は、愛知県図書館のものもできるようにして欲しい。会合などで要望しておいてほしい。

【中島委員】

今後の取組の方向性の文言が気になりました。「図書」として書籍に限定しない書き方をした方がよいと思います。郷土資料の古文書や新聞記事のデータなどあると思うので。幅広く調べたいものに対して調べる方法があること、窓口を広げておくとよいと思います。

【山田主幹】

ご指摘のとおり、デジタル画像やホームページのサイトなどをあわせて紹介する方法があります。言葉を「図書」ではなく「資料」や「情報」などとしたいと思います。貴重なご意見ありがとうございます。

【唐松会長】

レファレンスの取り組みについてもこのようなご意見をもとに取り組んでいただきたいと思います。続きまして、3 報告 小牧市中央図書館の状況報告について事務局により説明をお願いします。

【矢本館長】

資料2において「小牧市中央図書館の状況報告」をさせていただきます。

－（報告）－

【唐松会長】

報告をありがとうございました。これについてご意見等ございましたらご発言をお願いします。

【舟橋（精）委員】

4ページの貸出点数・利用者数の推移とありますが、その中の貸出の内訳を教えてください。予約して借りたものや相互貸借で取り寄せて貸出したものの数を教えてください。

【花里係長】

貸出点数の内訳としてではなく、予約点数や相互貸借点数はそれぞれで集計しています。年度末で集計し、ご報告させていただきます。

【舟橋（精）委員】

それでいいです。

【麻生委員】

お願いがあります。ボランティアをしています。イベントスペースを使ってクリスマス会を行いました。音響の人がいなくて大変でした。職員の配備をお願いしたいです。

【矢本館長】

できるだけ皆さんご自身でやっていただきたいと思います。大変なら言ういただければ協力させていただきますと考えております。

【酒向委員】

私は隣の市に住んでいるのですが近隣の事として注目しています。コロナが治まったら来館したいと言っている知人たちがいます。近隣の方々がどれだけ来ているか、他市の人は図書館カードを直接来館して作るのか教えてほしい。それをふまえてPRしていきたいと思う。

【矢本館長】

どなたでも身分証があれば小牧市の利用者カードを発行できます。近くの小牧市内図書室で作ってそれをもって来て中央図書館を利用していただくことも可能です。多くの方に利用していただきたいと思います。

【酒向委員】

どれくらい近隣の方の利用があるか分かりますか。

【矢本館長】

これまでも近隣の市町の図書館と連携して、近隣にお住いの方は小牧市の図書館を利用は出来ていましたが、新図書館の開館に合わせて全国どなたでも可能となったことで市外の利用者は増えております。

【坂東委員】

私も近隣市の図書館のカードを持っています。自由にそこはやられたらどうかと思います。

【酒向委員】

小牧で仕事をしていたときは利用者カードがありました。退職したとき引き続き使いたかったが、今までと同じような利用者カードは作ってもらえなかったのです。

【矢本館長】

利用者カードはどなたでも作ることができます。ただ、市内在住・在勤・在学の方と市外の方はサービスが違っているように感じています。たとえば電子書籍が借りられないとか、座席予約の事前予約が市内の方は7日前からだが市外の方は3日前からなど差があります。貸出することはどなたでもできます。そういった意味では同じ利用者カードではないということになります。

【唐松会長】

議事以外の質問になりますが、新聞に旧館の取り壊しで石綿があると載っていたが職員の健康は大丈夫なのでしょうか。

【矢本館長】

発見されたアスベストは部材の中に固められているものです。普通に建物を使っている分には影響がないものですが、解体する際には飛散する恐れがあるので除去が必要ということです。職員としては大丈夫です。

【酒向委員】

先日、古文書展をやらせていただきました。来館する際、いいのか悪いのか、図書館らしくないデザインのため図書館がどこかわかりづらかったようです。駐車場や建物の入り口にも迷い、イベントスペースの仕切り方で会場がわかりづらかった。との声をいただきました。初めてくる人にもう少しわかりやすくなりませんか。

【矢本館長】

案内については開館当初にもご意見をいただきました。最近は定着してきたためそうした苦情はほとんどなくなりました。今後は駐車場が満車になったときは駅地下駐車場を利用してもらう案内の工夫が必要と考えています。また、イベント会場は東面の移動壁をできるだけオープンにして利用していただけると来館者の目に付きやすいので、そうした点を工夫していきたいと考えています。

【唐松会長】

グッドデザイン賞の報告がありましたが、小牧市がもらったのですか設計士がもらったのですか。

【矢本館長】

小牧市と設計事務所の連名で出しております。ただデザインという点では設計事務所が評価されていると考えられます。

3 その他連絡事項

【唐松会長】

続いて、次第4 その他連絡事項について、事務局より連絡事項がありましたらお願いします。

【波多野主査】

委員の皆様の任期は、令和4年6月30日までとなっております、任期中の委員会は、今回が最後となります。委員の皆様におかれましては、会の円滑な進行にご協力いただき、また、貴重なご意見を賜りまして、ありがとうございます。連絡事項は以上です。

【矢本館長】

任期はまだ6月までありますので、先ほど利用に関するご質問の内容の資料は送付させていただきます。

【唐松会長】

それでは、議事、報告、連絡等すべてが終了いたしましたので、これにて閉会いたします。